



瀬戸市文化センターで開催された今年の文化祭。スローガンは「一星絆輝（いっせいはんき）～旋律を辿って～」、10月24日は素敵な一日になりました。

「指揮者も緊張しているのがわかった。でも、歌い始めると皆緊張がほぐれて楽しくなっているのがわかって、なんか熱くなった。こんな最高の行事をもう一回やりたい」（3年生の感想より）

これYONDE

品野中学校は昇降口を入ったところに読書コーナーがある。「これYONDE」のコーナーである。図書委員会が運営してくれており、お勧めの本が所狭しと並んでいる。つい手に取ってしまい、パラパラと頁をめくってしまう。「最後の頁（ページ）を閉じた 違う私がいいた」。たしか2～3年前に本屋さんで見かけたキャッチフレーズ。この感覚、読書が好きな人であれば、きっと誰もが味わった感覚ではないだろうか。先日、電車に乗る機会があった。あまり混んでいなかったので座ることができ、まわりを見渡すと……。20人ほど座っていたがそのほとんどの人が、スマホを手にしていた。その中で一人だけ、本を手にしている人を見つけた。カバーのかかった文庫本を開き、集中している。理由はないが、なぜかほっとしている自分がいいた。そして、鞆の中から読みかけの本を取り出したことを覚えている。今、子どもたちのまわりには魅力的な情報が溢れ、生活が多様化する中で、読書の時間が減っていると言われている。全国学力学習状況調査においては、「“家にある本の冊数”が少なくほど正答率が低い傾向がうかがわれた」としている。また、ある調査によると読書量が多かった人は、大人になったときに「思考力」や「行動力」などが高い傾向にあるとしている。いつの時代も読書は奨励される。頁をめくり、また、めくる。そして最後の頁を閉じる。以前とは違う自分を感じたい。

